歴史の真実を求める世界連合会

GAHT（ガート）

HP 日本語: https://gahtjp.org/　英語：http://gaht.jp/

第5号(全4頁)　活動通信

発行人　目良浩一
編集人　細谷　清

発　行

GAHT-U.S.A.
1223 Wilshire Blvd, #613
Santa Monica, CA 90403
U.S.A.
E-メール：info@gahtusa.org
電話：310-400-9521

GAHT-Japan
〒108-0022
東京都港区海岸3-19-2マリンシティダイヤモンドパレス716号室
電話：03-6868-4543
ファックス：03-6869-3690

2018年と今後の方針

我々GAHTは 今後も活動を続け、闘います

代表　目良浩一

1. グレンデール慰安婦像撤去裁判を振り返る

昨年の3月に米国の最高裁判所の判決が出て、2014年に始めたグレンデール市に対する裁判は終了した。裁判によって慰安婦像を撤去することは出来なかったが、この裁判によって慰安婦問題に関してかなりの成果があったと思う。

先ずは、米国における慰安婦問題が重要な問題であることが日本の人々にかなり広く認識されるようになった。しかも、この裁判に対して巨額の寄付金が寄与された。日本だけでも2万人以上の方からご支援をいただいた。更に大きいことは、それまで慰安婦問題に対して極めて消極的であった日本政府が、積極的に関与するようになったことである。2015年の末には、その内容は別にしても、日韓合意が達成された。この二国間では、この問題は、「最終的に、不可逆的に解決された」のである。そして、次の年の2月には、ジュネーブの人権理事会で、日本代表が、正面切って「慰安婦は性奴隷ではなかった、強制連行はなかった」と主張したのである。2017年1月には、韓国の釜山で総領事館の前に慰安婦像が’建てられたことを理由に、駐韓日本大使を召還した。2月には、われわれが裁判で米国の連邦最高裁判所に上訴したことを受けて日本政府が「目良浩一とGAHT-US」を支援する「意見書」を最高裁判所に提出したのである。それまでは傍観者であった日本政府が動き出したのである。この日本政府の大きな動きに対して我々は、結果は出なかったが、深く感謝している。

以上のような慰安婦像撤去裁判について記述した著書がこの4月にハート出版から「アメリカに正義はあるのか？」という表題の基に発売された。そこには、中韓系からの反論や妨害を含む様々な経験や裁判官の偏見などが記載されている。(↗)

2. 今後の活動目標とその内容

裁判が終了したからといって、GAHTの活動が終わったのではない。

米国では様々なところで慰安婦像や慰安婦碑の建造が企てられている。昨年中には、ジョージア州のブルックヘブンで建てられ、サンフランシスコにも建てられた。これらに対しても反対意見を発表したりしたが、功を奏しなかった。この問題に対してはアメリカ人の中に性奴隷説がかなり定着しているので、その基礎的な認識を変えなければならない。昨年の後半からアメリカ人などに正しい歴史認識を持ってもらうために、英文による著書の拡散に重点を置いて活動している。昨年の4月には目良の大東亜戦争の発端についての著書がハミルトン社から発売され、近日中には英文の『慰安婦非性奴隷』の改訂版がビスタポイント社から、細谷氏の英文の『朝鮮の慰安婦』がズブリス社から出る予定である。その他に日本兵士の慰安婦に関する証言集も英文で出版する予定である。

もう一つの戦略分野である国際連合は、例の悪名高きクワラスワミ報告を出した所であり、人権理事会では慰安婦奴隷説が大手を振って認められてきたところでもある。最近では日本の保守論客の活動や政府の発言によって、少なくとも奴隷説に対しては反対論の存在が認識されてきている。我々は日本について正しい知識が認識されるような活動をするとともに、中国や韓国に対しても、見解を発表して、国連が偏った判断をしないように、努力をしてきている。

ユネスコの慰安婦関係での「世界記憶遺産」の登録では、GAHTの姉妹機関が日本のＮＧＯと組んで、日中韓合同チームが主張する「(性奴隷の)慰安婦の声」に真っ向から反対する案を出した。昨年10月末の決定で、両者共に「記憶遺産」としては認められずに、今後の協議課題となった。彼らの提案を阻止する目的は一応達成された。今後の協議には応ずる予定であり、ユネスコからの協議開催の通知を待っている。

GAHT が始めた裁判という大プロジェクトは終了したが、慰安婦問題自体は日本国外では解決していない。この戦いは巨大な努力を必要とするもので、まだ出発点からあまり進んでいない。今からの課題である。我々はその事実を認識し、これからも忍耐と努力を以て長期的にこの課題に取り組んでゆくつもりである。今後ともにご支援のほど、お願い致します。

皆様のメールアドレスを連絡下さい。最新のニュース等を配信いたします。お名前と共にメールを下さい「info@ghtusa.org」

文芸春秋社の米国慰安婦像に関する記事に対しての抗議の手紙

河合　英男（ブラジル在住）
GAHT Branch Office of Brasil

文芸春秋編集部御中

小生ブラジルサンパウロに在住し、毎月2ケ月遅れですが文芸春秋を楽しく拝読していますが、今回は現状とは違った記述の情報が掲載されており、御社の編集の参考にとこ手紙を送ることにいたしました。

文集3月号、106頁に掲載されました木村幹氏の”慰安婦合意反故　韓国という病”の原稿について大変誤解されている文面がありますので、お知らせいたします。

113頁にあります（アメリカの街に少女像が建つと、日本の総領事館から抗議に行きますが、これは実際問題として、わざわざその存在を大々的に宣伝している結果になっている。騒がなければ小さな像が建っただけなので、地元でさえ大きな話題にならないのに、日本政府や日本人が大挙して抗議に行くことニュウスになってしまう。お世辞にも上手い方法とは言えません。）と言う文章は、著者のまったくの認識不足で大変な誤解です。

初めて慰安婦像(碑は以前から色々な場所で建設去れている)が建てられたのは2013年、カリフォルニア州のグレンデイル市ですが、このような韓国人の日本パッシングは、各市での慰安婦碑又は像の建設が起こる以前から開始されています。例えば国連人権委員会は日本軍が韓国女性を強制慰安婦として使用したと非難したCOOMARASWAMY報告書を発表ましたし、又アメリカでは韓国社会から金銭的支援を受け議員活動を続けたマイクホンダらの運動によるアメリカ下院での慰安婦に関する日本政府非難決議Resolution No 121が採択されています。又、カリフォルニア州教育委員会は、州の学校の教科書に慰安婦問題をとり上げる事を決定しました。これらの日本非難根拠は、基本的には吉田清二のフィクシオンを真実とした朝日新聞の大々的情報公開によるものです。それをもとに、在米韓国人は日本軍による韓国女性の性奴隷化は20万人も及ぶという虚実な宣伝を繰り返し、例えばグレンデイル市の慰安婦像と共に建てられた碑にも明記され話題にもなりますた。これだけの運動が続くと多くのアメリカ人も信用し始め、その結果市の政治家も韓国人の要請を可とし、慰安婦像又は碑の建設を市が主催する公聴会で承認される事になります。グレンデイル市で慰安婦建設の宣伝の主体となったのは韓国系の大勢の学生たちです。一時的でも、市民の多くがこの問題に何らかの形でかかわりました。又、この運動の余波で、日系人の子弟がいじめられるという事件も発生しました。こうした事態に、特に古くから在住する日系の人たちには、非常に心配し彼らのルーツである日本人の名誉と尊厳を傷つる行為に大変な怒りを感じています。残念ながら当時総領事館は一切知らん顔をきめていました。この事態にいたたまれなくなり、目良浩一氏（元ハーヴァート大学及びカリフォニア大学教授、アメリカ在住）らのグループが立ち上がり、The Global Alliance for Historical Truth (GAHT)をたちあげ、慰安婦の真実を知らしめ慰安婦像撤去を求める法的運動を開始しました。(↗)

グレンデイル市に引き続いて、アメリカの市ばかりでなく、カナダやオーストラリア、ブラジルでも慰安婦建設運動が盛んに行われました。

サンパウロでは、慰安婦像と戦時の日本兵による虐殺写真展の開催を韓国政府の出先機関が企画しましたが、日系社会の圧倒的圧力でキャンセルになりました。しかし、ご存じの様につい最近サンフランシスコ市、ブルックヘブン市に慰安婦像が建ちました。重要な事は、これらの運動は韓国移民が主体ですが、その裏で中国の抗日団体が色んな面で大きな支援をしていることです。木村氏の言われる慰安婦像が建設された各市では大きな話題になっていない、など全く見当違いも甚だしい限りです。我々外国で生活する人間は、日本国と言う傘のようなものはなく、所謂一人狼的に生きておりますので、これらの事件は直接生活に響いてきます。又、このような問題に何の関係もない外国で日本人を誹謗するこれらの運動は、卑怯であり完全に我々に対する敵対行為と理解しなければなりません。例えばブラジルの憲法はこの様なエトニア間の平和共存を乱すような行為を禁じています。

我々のGAHTは、アメリカでの慰安婦撤去を求めて裁判を起すとともに、慰安婦の真実を伝える為の資料や手紙を、多数の政治家、市長、市会議員、国連人権委員会などで送付し、セミナーにも参加しました。これらの反響は、少なくともグレンデイル市では現在の市長や市会議員が慰安婦像建設が適切でなかったことを認める発表をしています。又カナダのトロント市では、あちらの日系市民団体と協力して、韓国人の慰安婦像建設を阻止しました。同市の市長から時々メールが送られてきます。サンフランシスコ市では、前のチャイナ系市長がほとんどの市会議員を買収ししたため、我々の運動も効果を上げる事ができませんでした。慰安婦像建設のために開かれた公聴会はまったくの暴力公聴会でした。賛成者は発言を許すが、反対者の発言は阻止するというものです。領事館の人もこられたようですが、何の発言もなく退出されています（GAHTのレポート参照）。各国では韓国移民が増えており、韓国系の政治家も増えております。彼ら韓国系政治家の大きな目的は、慰安婦建設を通じての執拗な日本攻撃です。

日本の総領事館は、以前は日本人がいじめられても知らん顔で、GAHT会長の目良氏もペルソーナノングラッタでしたが、ここ1，2年は方針が変わりGAHTの最高裁への訴訟にも、日本政府が同意する意見書書を提出してくれました。日本政府のはっきりした外交政策が設定されたことは心強いことです。上のテーマの他、”合意は日本に有利だった”と言う木村氏の解釈も非常に我々とは考え方が違います。我々海外日系人の多くは、日本と韓国の慰安婦に関する合意が締結さその内容を知って、大変失望しました。どうして日本が謝る必要があるのか解らないからです。（次頁に続く）

所謂慰安婦と言うのは、1930年代、シナ駐在の日本軍が兵士が町に侵入して強姦事件を起こしたり、病気の伝染を防ぐため、多くは日本人の売春婦で構成された宿を建設したのがはじまりです。その後、日本人ばかりでなく、売春宿は色んな人種が雇われたでしょうが、韓国からも新聞広告などで募集され、高給で契約されました。目良浩一氏の著書Comfort women 、not sex slave　に詳しく広告や契約書のコピー掲載されています。又、アメリカ軍がビルマ戦線で衛生班が作成したUS ARMY REPORT No 46 1942 に、日本軍から離脱した20人の韓国売春婦を人権擁護の観点から調査を行いました。この報告書では、彼女たちはすべて兵隊の後を追うプロの売春婦で、高給を取りもし客を取りたくなければとる必要はなく、借金がなければいつでもやめる自由が保証されている。売春宿は日本人が経営するが毎週医者の検診を義務ずけている。彼女たちは良い生活を満喫しており、例えば一売春婦は日本兵と結婚した。この記述は、報告書に書かれたほんの一部に過ぎませんが、韓国が非難する売春婦の奴隷化の何の傾向も見られません。重要な事は、この報告書は、当時最大の日本の敵であったアメリカ軍が作成したもので、何ら日本軍の肩を持つような偽りを報告する義務がないことです。

又、クリントンとブッシュ大統領政権を通じて7年間にわたり3千万ドルの経費を費やして作成されたドイツと日本の第二次大戦の戦争犯罪調査の報告書（US Interagency Working Group Reporto, 2007)で、調査委員会委員長のAllen Weinstein 氏は、一部団体の期待に反して、戦時中の日本軍の戦争犯罪に関する資料は一切発見されなかた、と報告しています。慰安婦又は売春婦は韓国では過去も現在多数存在します。The International Business Times は 2015年に韓国のセックス産業の名目で詳細な報告を行っています。結論的にはこの国ではsex industry は昔ら繁栄しており、現在韓国政府の発表では約100万人の女性がこの分野で働いている。その収入は約2億ドル。又外国にも輸出している。15歳から25歳の女性の20%は何らかの形でセックスを売って金儲けしている。町のあらゆる場所や店が売春斡旋場になっている。彼女たちは、セックスを売るのは一種のスポーツ程度に考えていようだと結論ずけています。

常識的に考えて戦時中はもっと貧しく、多くの女性が売春して生活しており、韓国人が非難するように一々労力を掛けて強制連行しなくても、お金さえ払えばいくらでも売春婦は集められたことでしょう。以前ソウル大学のNa Biyonjiku教授は、韓国には昔から売春宿があり、日本軍が少女を強制連行する必要はない。又，今強制連行されたと言う元慰安婦が多数存在するが、どれだけ信用して良いか疑問である。我々の調査では、多くの慰安婦は信用できる証言していない、とレポートしています。このレポートは、勿論現在の韓国では発表禁止になっています。
日本軍が多数の韓国女性を強制的に拉致して性奴隷としたと非難する学術的根拠は何もありません。あるのは、朝日新聞がお墨付きを与えた吉田氏のフィクシオンと、それをもとに捏造したCOOMARASWAMY報告書とアメリカ議会のresolution 121，それにどこまで本当か解らない元慰安婦の証言です。どうして韓国人はこうも執拗に信仰のように慰安婦問題で日本叩きをするのか。（↗）

心理的に彼らは日本への拭い切れないコンプレックスを持ち、外国で日本を攻撃すると言う心境はまさしく異常心理と理解しなければなりません。我々日本人は、外国で生活した場合、基本的にはその国での仕事の成功や貢献を考えますが、まさか他の民族の悪口を言ってホスト国民のシンパシーを得ようなどとても考えつきませんね。

これら問題の最も良い解決方法は、日本人がはっきりと真実を世界に発信する事です。当時の河野官房長官のような真実を隠したままの腹芸の解決策では、問題が悪化するばかりです。
韓国人は聖人の如く日本人を非難しますが、彼らがヴェトナム戦争でやった何万と言う少女のレイプ事件は、悪質な性犯罪ですし、完全な証拠があります。それは約3万人にも及ぶと言われる韓国系あいの子、ライダイハンの存在です。彼らは現在もヴェトナム社会から差別をを受けて苦しんでいます。最もこの問題を人権保護の立場から重要視して行動しているのは、英国及びアメリカです。アメリカの公文書館NARAにはこの問題に関する証拠が十分保管されているという事です。それにNARAの情報には、レイプした少女を慰安婦宿に強制的に集め、一つのグループは自動車で巡回して戦場で韓国兵相手のセックスビスをさせ、他のグループが本部でのセックスに従事させていた事が判明しています。
この件に関し、我々のGAHTは、去る2月22日に国連人権女性差別撤廃委員会の韓国セクシオンに宛て、ヴェトナムの韓国兵にレイプされた女性の尊厳と権利回復及び性的暴力で生まれたハーフの子供たちへの、教育や生活の保障を求めた提案書を提出しました（LINK参照）この提案書は、委員会CEDAW COMMITTEE のWEBSITEに掲載され、委員会に出席したメンバーすべてに回覧されました。しかし、残念ながらロビー活動不足で、採択までもって行くことが出来ませんでした。またこの提案書は、アメリカやヨーロッパのプレス及び関係市の市議員に配布しました。この提案書の中で記述した重要な点は、この性的暴力が帝国時代ではなく、女性の権利や民主主義がすでに確立した60年代から70年代に起きていることで、韓国政府はヴェトナム女性とその子供に深く謝罪し賠償すべきである、と提案している事です。
最後に、貴社で一体慰安婦とは何か、どうして韓国はこうも執拗に慰安婦問題をもちだすのか、韓国兵がベトナムで行った暴挙はどの様なものか、なぜ韓国政府は一向に謝罪しないのか、などの課題について特集して頂けませんか。日本、韓国及び世界のため良いプロジェクトと存じます。
詳しい慰安婦情報が必要な場合は目良　浩一氏 koichi.mera7@gmail.com , ヴェトナムライダイハンなどの関連資料が必要な場合は、イギリスIndepent 紙の関連記者であるSharon Hendry さん sharon.henry@lemlemmedia.comに連絡されると良いと思います。
彼女はヴェトナムで詳しいレイプされた女性及びライダイハンのレポートを書いています:

https://drive.google.com/file/d/1bHDmm0gntlUqh76c48iIAIRkR3xaYoLA/view

（以上）

主な活動　（平成29年5月からの一年間の主な活動内容）

（平成29年）
- 5月15日　裁判の報告と目良浩一出版記念の講演会
- 9月　役員会（於：米国NJ)
- 10月31日　ユネスコ世界の記憶遺産に関する申請者GAHTの声明 発表
- 11月　国連人権理事会　日本UPR意見書提出・傍聴

（平成30年）
- 2月15日　GAHT講演会「国際社会での歴史戦　GAHTの闘いと今後の展望」
- 3月2日　米国ブルックヘブン市長宛の公開書簡を発出
- 3月19日　国連CSW62イベント　ニューヨークでの講演会（講師：河添恵子他）
- 5月15日（予定）グレンデール慰安婦像撤去裁判　出版記念講演会

（ご参考）

目良代表が活動の成果等を出版しました。

GAHTは活動に深く関連する本の公知を支援していますが、出版に際しての金銭の援助は一切しておりません。

“Whose Back was Stabbed? FDR's Secret War on Japan”

「フランクリン・ルーズベルトの陰謀 日米戦争突入へ 背後から日本を刺したのは 誰だ？！」

Hamilton Books 2017, Maryland USA

新著：

『アメリカに正義はあるのか』
グレンデール「慰安婦像」撤去裁判からの報告

ハート出版
2018年4月発売

GAHT-USの役員

5月6日の総会で役員の改選を行った：

代表	目良浩一
副代表	藤井厳喜
財務担当理事	平野徳子
広報担当理事	高橋光郎
書記	細谷清

GAHT-日本の役員

5月11日の総会で役員の改選を行った：

代表理事	藤井厳喜
理事長	目良浩一
副理事長	山本優美子
理事	細谷清
監事	堀野浩史

皆様のメールアドレスを連絡下さい。最新のニュース等を配信いたします。お名前と共にメールを下さい「info@gahtusa.org」

編集後記：最高裁判所の裁定が出てからの一年間は、「戦場」が複数に有って寧ろ忙しい位であった。正にGAHTは闘いを続けている。

国連の人権関係の理事会・委員会で意見を述べる活動、他団体も意見を出し易くする国連での環境づくり、GAHTも中心となって申請したユネスコでの慰安婦関連での日本軍と軍人の規律を記憶遺産に登録する活動の他に、米国・日本での広宣活動に特に力を入れた。会の名称通り「歴史の真実」を求め、それを「世界に発信する」会の活動として、昨年目良代表は「Whose Back Was Stabbed?: FDR’s Secret War on Japan」を発行し、今年は『アメリカに正義はあるのか』を既に発行し、英文での慰安婦問題本の発行も控えている。他にも2冊の英語書籍化が進行中だから、忙しいのだ。

今回号は初めてブラジルからの声を掲載した。「浜の真砂は尽きても世界で反日の種は捏造され続け」、最前線にいるからこそ前方からも後方からも飛んで来る鉄砲玉を避けながら奮闘するGAHTへの、万の神様のご加護と皆様の変わらぬご支援をお願いします。　(KH)

GAHTは引続き国際社会での歴史情報戦の最前線で闘います

そのGAHT の活動を支えるために

活動資金のご協力を、是非お願いします

銀行振込み等による寄付方法

- **三菱東京UFJ銀行**
  支店名：　藤沢支店　（支店番号257）
  口座番号：0421906　普通
  口座名：　歴史の真実の会（レキシノシンジツノカイ）
- **ゆうちょ銀行**
  振込口座番号：00180－0－292163
  振込口座名：　歴史の真実の会（レキシノシンジツノカイ）

■**クレジットカードによる資金**
クレジットカードの利用をご希望の皆様は、ウェブサイから直接決済が可能です。
URL：　http://www.gahtjp.org

＊領収書は、お振込の書類を以て代用させていただきます。
別途領収書をご希望の方は　info@gahtusa.org　までメールにて連絡ください。